

事業所名

ばんそうS&S あわっ子らんど

支援プログラム (児童発達支援事業)

作成日

2024年

11月

9日

法人(事業所)理念		健全な体と健全な精神を、利用者も職員も共に持ち続け、思いやりのある、深い絆で結ばれた人と人との繋がりが絶え間なく続き、地域社会とともに発展し続ける法人であるように。									
支援方針		<基本的な心構え> 1. 聞く・洞察する 2. 話しかけてから支援を始める 3. 希望を尊重する 4. 「できること」を大切にす 5. 丁寧に観察する 6. 安全の確保									
営業時間		8	時	30	分から	16	時	30	分まで	送迎実施の有無	あり
支援内容											
本人支援	健康・生活	送迎時及び来所時に手洗い・検温および心身の健康状態の確認を行います。個々に合わせてトイレトレーニングや手洗い等日課の提供を行い、基本的日常生活動作の獲得や生活習慣(食事・排泄・衣服の着脱など)が身につけられるよう支援します。また、健康教室などで歯みがき支援や食育並びに感染症対策等健康面に関して意識の向上が図れるよう実施します。									
	運動・感覚	日常基本動作(座る・立つ・歩く)を軸に個々に合わせた運動を提供します。体操やサーキット遊び、外遊びを通して体力の強化や機能向上を目指します。さらに、音楽遊びを取り入れ、ピアノに合わせて、合唱したり、楽器を鳴らし、楽しみながらリラクゼーションや情緒の安定が図れるよう支援します。									
	認知・行動	一人一人の認知の特性を踏まえ、本人からの要求や表出を促すような環境設定や構造化を図り、自分で選べるよう支援します。また、職員と一緒に遊びながら、コミュニケーション行動のモデルになり、適切な行動に移せるよう目指した支援を実施します。さらに、読み聞かせの時間を設け、感性を養うとともに絵本の内容から楽しみながら学べるよう工夫します。									
	言語コミュニケーション	アイコンタクトやジェスチャー、サイン等を用いて意思確認を行います。場面に応じた適切な行動がとれた時は認め、自分の気持ちや思いをのびのびと自己表現でき、開放的な気持ちを味わえるよう、支援します。									
	人間関係社会性	定期的に玩具の入れ替えを行い、遊びが広がる工夫をします。また、子どもの状況に応じて個別活動と集団活動を組み合わせ、一人遊びから職員を介した協同遊びへと変化させ、他児へ関心を持ちかかわりを持って遊ぶことを楽しめるよう目指します。さらに、公共施設や公園利用の機会を持ち、施設外の人とふれあう中で社会性を育めるようつなげます。									
家族支援		日々の支援日誌に活動時の写真を添付したり、送迎時に顔を合わせ、子どもの様子を伝えます。定期的な面談及び急な利用ニーズや子どもとの関わりで起こる困り感などの相談に対応し、支援します。				移行支援		ライフステージが変わる際には保護者の承認のもと、移行先関係者との面談機会を持ち、個別相談や連携を図り、共通理解を深めるよう努めます。			
地域支援・地域連携		必要に応じて専門機関(医療的ケア児センター等)や相談支援事業所等の関係機関と連携を深め、情報共有や共通理解に努めます。				職員の質の向上		施設外研修参加職員等の報告会、また事業所における毎月の人権擁護委員会や勉強会を実施し、幅広い視点や知識・技術をもって子どもたちと関われるよう職員の資質の向上に努めます。			
主な行事等		季節の行事(新年会、節分、ひな祭り、ハロウィンイベント、クリスマス会)や、保護者を招いた運動会や夏祭り等の行事を開催します。また、長期休みの際には水遊び(プール)やバス遠足、買い物支援・外食支援等実施します。									